

こ の の 名 前

車 で 走 っ て いる と き 、 「 赤 ち ゃ ん の 名 前 鑑
定 し ま す 。 ご 相 談 く だ さ い 」 と い う 看 板 を 目
に し た 私 は 、 ふ と 長 男 が 誕 生 し た 際 に 名 前 を
つ け た 時 の こ と を 思 い 出 し て い た 。

初 め て の 子 ど も を も っ た 新 米 パ パ と マ マ の
私 と 妻 は 、 何 日 も 話 し 合 っ て 名 前 を つ け 、 近
く の 文 具 屋 に 命 名 の 用 紙 を 買 い に 行 っ た 。

今 も 苦 々 し く よ み が え っ て く る 。 老 眼 鏡 を
か け た 文 具 屋 の オ ヤ ジ が 、 ニ コ リ と も せ ず に 、
「 ど ん な 名 を つ け た の ? 」 と 聞 い て き た 。 名
前 を 決 め た 嬉 し さ も あ り 、 「 ○ ○ で す 。 」 と 私
は 得 意 げ に 答 え た 。

そ の と た ん 、 オ ヤ ジ は 何 か 難 し そ う な 姓 名
判 断 の 本 を 持 ち だ し て き て 、 「 あ の ね 、 ど う
も そ の 名 前 は よ く な い よ 。 十 代 の う ち に 交 通
事 故 に 遭 っ て 、 命 の 危 険 が あ る と 出 て いる よ 」
と 偉 そ う に 言 う で は な い か 。

バ カ な 私 は 、 こ の オ ヤ ジ に 余 計 な こ と を 言
っ て し ま っ た 後 悔 と 、 迷 信 と は 思 い つ つ も 息

子の将来に関する漠然とした不安で落ち込んでしまった。「私がいい名前を考えてあげるから・・・」というオヤジの言葉を背中に聞きながら帰宅した。

後で聞いた話では、このオヤジは姓名学の研究家で、謝礼を払って子どもの名前をつけてもらった夫婦も結構いるとのことだった。

若くて未熟だった私と妻は悩んだ。可愛い息子に、自分のつけた名前では何かあったらどうしよう・・・やっぱり別の名前をあのオヤジに頼んだほうがいいのだろうか？心配でたまらなくなりました。氏子になっている宮崎八幡宮の先々代の宮司さん（故人）に相談に行きました。

宮司さんは、私たちが考えた名前を見るなり、「とてもいい名前じゃないの。ご両親が子どもさんのことを一生懸命に考えてつけるということは、責任をもって育てていこうという気持ちの表れなんだから、その名前で不幸になるなんて絶対にありません。見ず知ら

ずの他人にお金を払ってつけてもらうより、
自分たちが名付けたときの気持ちを忘れずに、
一生懸命に育てていきなさい。」と言ってくれ
た。
この宮司さんの老成した温かな眼差しと、
穏やかな口調がうれしくて涙が出た。迷いが
吹っ切れた私は、二人で考えた名前を長男に
つけ、命名紙に書き、出生届を出した。もち
ろん2年後に生まれた次男、9年後の長女に
も、自分たちで考えた名前をつけた。
・・・その長男と次男も、もう30代
半ばを過ぎた。もちろん子どもたちの今まで
の道のりにも色々大変なことはあったがそれ
ぞれに嫁をもらい、夢に向かって一生懸命生
きている。そして彼らも、この数年間に生ま
れた孫たちに自分たちで考えた名前をつけた。
話したことはないので、自分の名前がつけ
られたときの顛末を、おそらく長男は知らな
いと思う。